



令和4年8月29日

# かみせや

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

8・9月号

上瀬谷小学校教育目標

学び合う子

認め合う子

鍛え合う子

## 自然豊かな上瀬谷のまちで

校長 小林 京子

夏の終わりが近づいた夏休みの上瀬谷の校庭では、セミが最後の力を振り絞って鳴いています。スズムシの歌声も聞こえてきます。自然豊かな上瀬谷を改めて実感します。

本校では、校庭南側のキッズ農園で低学年を中心に、夏には、ナスやピーマン、秋には、サツマイモ、冬になればダイコンと収穫を楽しみ味わうことができます。家庭にもいつもお土産付きです。この収穫体験を支えてくださっているのは、竹村町の川口様です。日々、畑の様子を見て管理して下さり、子どもたちに体験を楽しませようと声をかけてくださいます。土を触り、それぞれの野菜の生長を子どもたちと見守りながら、収穫を指導して下さいます。この夏も、たわわにナスやピーマンが実りました。

それだけでも十分幸せな体験ができると思っていましたら、今年度は、さらにご近所の2か所から収穫体験のお誘いをいただきました。一つは、瀬谷養護学校の高等部から、「ニンニクの収穫をいっしょにいかがですか」と。子どもたちも、ニンニクが料理の裏方として活躍していることは知っていても、どのように育てているのかは、なかなか知らないものです。5年生が伺い、養護学校の高等部の方と収穫させていただきました。たくさんのニンニクは、本校栄養士のナビゲートにより上瀬谷小の給食室で調理してもらい、様々なメニューに登場しました。もう一つは、上瀬谷町の地域の方から「トウモロコシを採りにおいで。」とお声かけいただき、4・5年生が畑に伺いました。子どもたちは、自分たちの身長ほどに伸びたトウモロコシに身をうずめ、皮に包まれたトウモロコシの香りを感じながら収穫をさせていただきました。こちらもお土産付きです。どの学年の子どもたちも、収穫を体験し、両手に収穫物を抱えて帰ってくる姿は生気がみなぎっていました。

また、3年生は、地域の方の竹林の中で冬を越したカブトムシの幼虫をいただき、夏前にはたくさんのカブトムシを成虫にしました。さらに、かつて養蚕が盛んだったこの地域のカイコをまゆまで育てるという体験もしています。6年生は、上瀬谷の「はらっぱ」(旧上瀬谷通信施設)で、下級生たちと遊ぶという計画を立て、実行しました。この活動には、保護者の方々のお手伝いをいただきました。

いよいよ国際園芸博覧会や上瀬谷通信施設地区の新たなまちづくりが本格的になり、桜の名所づくりに向けた基本計画等も市民に示されました。海軍道路をはじめとした上瀬谷のまちも少しずつ変わっていくようです。この地域で生活をしていく子どもたちにとって、よりよいまちになるよう願うとともに、学校では、これまでの古き良き身近な自然を大切にしたいと考えます。目まぐるしく変化する時代の中でも、地域の皆様にお力添えいただきながら、この豊かな自然環境を活かし、子どもたちの感性を養っていききたいと思いをします。